

カリユ・ペラーム

2008年12月22日 設定を少し改変



設定

本名「パンジー＝フラミス＝ルライヤ」。
アマゾネス（女戦士）であるを務めている**パンジー族**の少女。
年齢は17歳。

17歳という若さでアマゾネスを務めているが戦闘力は相当なもので、一族の中では数少ない戦力となっている。

パンジー族特有の、聴いた者を眠らせてしまう効果を持つ歌は当然使用可能で、その歌で相手を眠らせたり油断させたりしてからサーベルで攻撃する。

他にも、踊りのような身のこなしで相手を連続で斬りつけて攻撃する「ソードダンス」や、聴いた者の脳にショックを与え、一時的に混乱状態にさせる歌「プレグル・ソング」といった技も得意としている。

可愛らしい体色を持つ者が多いというパンジー族の中では珍しく毒々しい体色だが、それには理由がある。

彼女は15歳の時にとある悪の組織に誘拐され、組織のボスに洗脳を施されて悪の心を持ってしまったことがある。

本来の彼女は普通のパンジーさんと同じく、ピンクや薄紫を基準とした可愛らしい体色だったが、

洗脳を施されると同時に、ボスの魔法で今のように毒々しい体色に変えられてしまった。

目の下の辺りに描かれているペインティングは、悪っぽさを強調する為に描かれたもの。

また、顔に付けている大きなマスクは、可愛い顔によって相手に舐められないようにする為に自ら製作した。

組織に誘拐されたばかりの頃の彼女は戦闘の経験は皆無であった為に厳しい戦闘訓練メニューを設けられたが、

彼女は戦闘の素質が十分にあっただけで、所属してから僅か一ヶ月程度で、彼女は戦闘力が急激に上昇し、組織の主力ともいえる存在にまでの上昇がいった。組織内での彼女の役割は、高い戦闘力を必要とする部隊の一つ「盗賊部隊」の戦闘要員だった。

彼女が所属していた悪の組織は、彼女が誘拐されてから約一年と半年ぐらいたった時に、組織のボスがマリオの活躍によって倒された為、組織も壊滅する事になる。ボスが倒されたのに伴い、彼女も洗脳が解けて元に戻ったのだが、体色は戻らなかった。体色が戻らなかったのは、ある医者のお話によると「体の色素細胞が完全に変わってしまった」かららしい。最初はあの毒々しい色を嫌がっていた彼女だが、次第にほとんど気にしなくなっていった模様。

組織内での訓練によって鍛えられた戦闘力は洗脳が解けた後も衰えず、組織に所属している時に感じた、戦う事の「楽しさ」と「爽快さ」を忘れられることができなかった。彼女がパンジー族のアマゾネスとなったのも、その「楽しさ」「爽快さ」を何時でも感じられるようにする為と、組織内の訓練によって習得した高い戦闘力を大いに役立てる為である。

「カリユ・ペラム」という名前は、悪の組織に所属していたときに与えられたコードネームのようなもの。本人はこのコードネームが妙に気に入ってしまったらしく、パンジー族のアマゾネスとなった今でも名乗っている。顔に描かれたペインティングと自作したマスクも同じく気に入っており、今では彼女のお洒落の一つとなっている。

一人称は「わたし」。
性格は基本的に優しく、間違っただ事は大嫌い。
しかし、悪の組織に所属していたときは冷酷無情な性格になっていた。

なお、彼女は「きらパンハンター撲滅委員会（詳細はパンジー族のページを参照）」の会員でもある。